

プロシアニ於ケル華族世襲財産廢止法

前文

獨乙ニ於ケル華族世襲財産制度ノ成立ヲ見ルニ、西獨乙地方ニ於テハ第十四世紀頃カラ貴族ノ間ニ世襲領地法（貴族ノ所有地ニ就テ一子相續ヲ定メ且之レヲ賣却シ又ハ負債ノ擔保ト爲スコトヲ制限スル法）ガ發達シ、又東獨乙ノ騎士飲地方デハ第十六世紀頃カラ貴族等ハ家憲ニ依テ所有地ノ分割、賣買等ヲ禁止シ同様ノ目的ヲ達シテモタノデアリ、夫等ガ基礎トナツテ現在ノ華族世襲財産制度ガ成立シタノデアル。近世ノ華族世襲財産制度トハ土地其ノ他ノ財産ヲ有スル者（原則トシテハ貴族ニ限ル）ガ其ノ財産ノ一部ヲ自家ノ世襲財産ト爲スコトヲ決定シタ場合ニ國家ガ之レヲ認メテ、法律上其ノ財産ヲ不融通物トシテ特別ニ保護スル法制デアル。即チ或ル家ノ世襲財産トナリタル財産ハ設定者ノ定ムルトコロニ依リ一定ノ順位ヲ以テ代々一人ノ相續人ガ之レヲ繼メテ相續スルノデアツテ、所有者ハ原則トシテ之レヲ他ニ讓

渡シ、分割シ又ハ負債ノ擔保ト爲スコトヲ得ヌノデアリ、同時ニ債權者ハ之レヲ差押ヘ又ハ競賣スルコトヲ得ヌノデアル。從ツテ一定ノ家ニ對シ經濟上安全ニシテ同時ニ社會上優越ナル地位ヲ與ヘル制度ト云ヘル。而シテ貴族ハ大概農地又ハ林地ヲ以テ自家ノ世襲財産ト爲スヲ普通トスルカラ、農政上ニ於テハ此制度ハ貴族等ノ土地兼併ヲ助長シテ中小農民ヲ没落セシムルモノト云フ非難アルヲ免レナイ。

一九一八年ニハ、プロシアニ於テハ約二百五十三萬ヘクタールノ農林地ガ華族世襲財産トシテ緊縛サレ自由賣買ノ市場カラ取除カレテキルノデアリ、然モ其ノ面積ハ毎年平均一萬五千ヘクタール乃至二萬八千ヘクタールツツ増加シテキタノデアルカラ、夫レガ如何ニ大地主ノ土地兼併ヲ助長シ中小ノ自作農場ヲ没落セシメ内地植民政策ノ效果ヲ抹殺シタカハ多ク論ズル必要ナイ程明カナコトデアル。

然ルニ一九一九年八月十一日ノ獨乙國植民法ニ依テ、植民用地ノ強制收用其ノ他内地植民ノ促進ニ關スル事項ヲ規定シタノデアルカラ、

其ノ趣旨ヲ徹底セシメル爲メニハ、是非共華族世襲財産制度ヲ廢止シ
ナケレバナラヌコト、ツタ。加之此ノ制度ハ貴族階級ノ維持存續ヲ
圖ルトイフ政治上ノ目的ニ依テ維持サレルモノダカラ、夫レハ性質上、
當然君主國ニノミ存在ナスベキモノデ、革命ニ依テ共和國トナリタル
以上最早獨乙ニ於テハ其ノ存續ノ理由ヲ失ヒタルモノト謂ハネバナラ
ヌ。カクシテ共和國憲法ハ其ノ第五十九條ニ於テ「
取得力住居ノ需要ヲ充ス爲、拓殖開墾ヲ獎勵スル爲又ハ農業ノ發達ノ
爲必要ナルトキハ之ヲ收用スルコトヲ得、華族世襲財産ハ之ヲ廢止ス
ル」ト明カニ此制度ヲ廢止スベキコトヲ規定シ、夫レニ基イテ各
支令國ハ之レガ廢止ニ關スル法律ヲ制定シ、此ノ封建ノ遺制ハ漸ク其
ノ影ヲ沒スルコトトナツタノデアル。

而シプロシアニ於テ華族世襲財産ガ實質上廢止サレルニ至ツタ經過
ハ以下ノ如クデアル。先ヅ一九一九年三月十日ノ「華族世襲財産ニ關
スル命令」、一九二〇年六月廿三日ノ「貴族ノ身分上ノ特權ノ廢止及

家産ノ解除ニ關スル法律」及一九二〇年九月二十二日ノ「一九一九年三月十日ノ華族世襲財産ニ關スル命令ノ改正法」ヲ以テ華族世襲世襲財産ノ新設擴張ヲ禁止シ、同時ニ既存ノ世襲財産ハ家族會ノ決議ニ依テ之レヲ解除スルコトヲ得ルモノト定メ、且若シ當事者が右ノ方法ニ依テ一九二一年四月一日迄ニ解除セザルトキハ政府ハ之レガ解除ヲ強制スルコトヲ得ルモノト定メテ、家族會ノ決議ニ依テ自由ニ解除シ得ル途ヲ設ケ、次デ一九二〇年十一月十九日ノ強制解除令ヲ以テ強制解除ノ方法ヲ定メタノデアアル。カクシテ獨乙ノ華族世襲財産ハ廢止サレルニ至ツタ。